

逆異世界同棲 アマゾネス編

決定稿

2020.04.23

トラック1…日常パート

おかえり。今日は早かったな。

ふ…私と会いたくあまり…仕事を急いで終えてきたなど…可愛い奴よ。

SE:服が擦れる音

(嬉しさ反面戸惑い有) ん? どうした? 帰って来て早々…私を抱き締めるだなんて…。
くく…よっぽど疲れておるようだ。食事ではなく、私の身で英気を養おうとするとはな。
全く…お前はふとした瞬間に甘えてくるのか。

だが…やはりお前には、そんな疲れ切った表情は似合わないよ。

夕飯はできている。早速食べ…精力をつけて…力いっぱい笑うとよい。
ほれ、こっちに座って…食べようぞ。

(咀嚼音) あーむっ…んっ…ん、んっ…ん…。

肉はやっぱり上手いな。…私の血肉へと変化するのがよくわかる。

元の世界で食べる肉よりも、野性味はないが…これもまた美味だ。

ふ…私の屈強な肉体の源は…元の世界で食べ続けてきた獣共の肉だ。

お前は…普段あまり肉を食べぬのか?

服を着用しているとはいえひよろひろろではないか。そんなでは…力で私に負けてしまう
かもしれぬぞ? 今日は多めに調達してきたからな、お前も沢山食べろよ。

(咀嚼音) ん…ふう…んっ、んん…。

先ほどから食が進まないようだな…。お前は食わないのか?

肉だけはどうかと思ってな、キャベツもあるのだ。しかと食^{しょく}すとよい。

(咀嚼音) んっ…ん、んうっ…んっ、あむっ…ん…ごくんっ。

? いちいち切らずとも、このまま、がりがりと貪るのが旨いのよ。

…お前は丁寧に切ってあった方が食いやすいのか?

(申し訳なさそうに) …すまん…元の世界の癖が未だに抜けないのだ。
食いやすい大きさに切ってきてやるから、少し待っておれ。

SE:皿を持ち上げる音

SE:席を立ち、歩いていく音

SE:料理道具を取り出す(遠くで)

SE:キャベツを切る音(遠くで)…途中で止まり

(指を切ってしまったリゼ)
っ……！

SE: キャベツを切る音 再開(遠くで)

SE: 包丁を置く(遠くで)

SE: 歩いてくる音

SE: 椅子に座る音

SE: 皿を置く音

ほれ、これならどうだ？ 食いやすいのではないか？

ふふ…それならよい。では食事を再開するでしょう…。

…おい…私の指先ばかりを見つめてどうした？

切り傷？ …ああ、これはな…。

お前は普段料理をしていないようだが…あの包丁、案外よく切れるようだ…。

キャベツを切る途中で、指先を少し切ってしまっただけのことよ…。

安心してくれ。食材に血は付いていない。

(照れたように) お前は…心配性だな。

少し切っただけだ。この程度…元いた世界では日常茶飯事よ。

(眩くように) だが…お前に心配されるのも…悪くはないな。

SE: 食事の音

(溜息) ふう…手が止まっているぞ。

肉が硬くなってしまおうであろう？ さっさと食べてしまえ。

SE: 食べ進める音

…ふう…ごちそうさまでした、と。

SE: 食器を片付ける音

今のお前、すごくよい表情をしているぞ。満足できたようだな。

しかし…まだ指先を心配しているのか？

何度も言っただろう？

指先を切る程度、よくあることだったのだ。

お前は想像し難いかもしれぬが…お前と出会う前、元の世界にいた私は…森林の中に集落を作り、数多の人と共存し、狩猟生活を送っていたのだ。

ここだと、食べやすく加工された食材が並び、それらを調理するのみ。

(少し寂しそうに) 何て容易い生活だろうか…。

ふっ…狩は男がするもの…それはお前の想像よ。

私たちの部族ではな、どうしてか…男が減多に産まれないのだ。

だが、自分たちの子孫を残すには男がいないとどうにもならないだろう？

女だけでは、子どもを産めぬからな…。狩猟中に男を失うわけにはいかなかった。

そこで…先祖たちは、女が狩猟に行くように掟を定めたのだ。

な…に…この程度、草で切れたのと同じ。もしくはそれ以下の痛みよ…。

何より…常に死と隣り合わせだからな。どんな状況下でも、仲間を想う気持ちは強い。

同じ村に産まれ、育ち、戦い、生きておるのだからな。

(照れたように) ふっ…しかしお前に心配してもらえたのは…正直嬉しかったぞ。

(思い出したように) あっ…それともう一つ、この世界と、私が住んでいた世界とは違うことがある。

ここでの…成人の儀…というのは、何やら大それた式に出るのが習わしなのだろう？

私がいた世界での成人の儀はそういった類たぐいではないのだ。

あちらではな…成人の儀として、女は、その身に子どもを宿す必要があるのよ。

ふっ…私は…その儀を執り行う前に、この世界へと飛ばされたがな…。

(悲しそうに) お前に、想像ができるか？

成人の儀だからと、自分よりも一回りも二回りも年を重ねた男と…行為をしなくてはならない、女の気持ちが。

男と愛情を育み、生涯を誓って子を作るのではない。

女として成熟し、男を魅了できるだけの年齢になった、という理由で…好意もない男と体を繋げねばならぬのだ。

ふ…こればかりは仲間意識が強い、という気持ちだけでは…どうにもならぬのよ。

だからな、

SE:立ち上がる音

私は…嬉しいのだ。

よく知らぬ世界に飛ばされたとしても、お前のような…心を揺れ動かされる者と出会えたことが。

（深呼吸）（覚悟を決めたように）お前なら…。お前とならない。

私と……契りを結んでくれ。

FO

トラック2…キスからの愛撫

(トラック2での恥じらいは強がり混じり)

SE:服が擦れる音

(舐めるシーンまではキス)

(吐息多め) 成人の儀を済ましてはおらぬが…把握はしているぞ。
契りを結ぶ前に、まずは…口付けを交わすのであろう？

(丁寧) はあ…んっ…ふうっ、んっ…。

(恥ずかしくも積極的な雰囲気) ふふ、お前も口付けが初めてなのか？
そうか…ならば、初めて同士…ぎこちないながらも、最後までするでしょう。
そんなにきつく目を閉ざして…安心しろ、唇を噛みはしない。
ただ…小鳥が啄むように、唇同士をはもう。

ふうっ…ん…むうっ、ン、はあ…んっ…ん、ん…。

(若干恥じらいながら) 何やら…胸の辺りがどくどくと強く脈打っている。口付けをすると…こんなにも気分が高揚とするのだな。

だが…知っておるか？ 舌同士を絡ませ合うのも…よいらしいぞ。

(激しく) んう…ちゅう、ん、はあっ、ちゅっちゅ…むうっ、んっ…ああっ、はあ、ンッ…。
うえろっ…んっ…れろっ、んうっ…はあっ、んっ、にゅっう、ん…。

んっ…ふふ…体も熱くなってきたようだ…。実に興奮して…お前に触れたくて堪らん。

はあっ…ん、ちゅっ、んうっ…ん、っ…ちゅっ、ん…あっ、はあっ、ン…ふうっ、んっ…ん
うっん…ちゆるっ…ちゆるちゆる…んうっ、ンッ…んん…。

(恥じらいつつ囁く) なあ、直接…触れてもよいか？ お前に触りたくて堪らないのだ。
はあっ、ちゅっ…ちゅーっ…んっ、ん、んう…。

私が服を脱がしてやる…だから、お前は…ただ私に触れられていてくれ。

SE:服を脱ぐ音

ぎこちなく胸を舐め始める

(吐息) んっ…っ…ふふ…ん…。

案外、悪くない体をしているな。

ぺろ…ぺろぺろ…んっ、ふふ…しかし、（以下、誇らしげに）私には敵わぬな…。

見てみよ…この鍛え抜いた我が筋肉を。

産まれた時より…常に獣共が住む野生を生き抜いてきたのだ。お前が筋肉量で敵わぬのは仕方ないさ。

ん…ぺろぺろ、っ、んう…ぺろっ…ペーろっぺろ…ぺろぺろ…んうっ、はぁっ…ぺろぺろ…ぺろぺろ…。

だが私と共に元の世界に戻れば…、お前も直ぐに隆々とした筋肉を得ることが出来るはずだ…いや、やはり今のは無しだな。私以外の女に…お前を触らせたくはない。お前には…私だけのものでいて欲しいのだ…。

ペーろっ…ぺろぺろ…ぺろーっ、んうっ、ン…はぁっ、ん…ぺろぺろ。ぺろぺろぺろ…んうっ、はぁっ、んう…ん、ペーろっ…。

しかし…このぷにぷにとした腹回り…意外と心地がよいぞ。

そうだな、お前はこのぐらいの締まりが丁度よい。

ぺろぺろ…んうっ…ペーろっ…ペーろっ…ぺろぺろ、ぺろぺろ…。

ふふ…既に興奮してきおったのか？ いやらしく乳首が勃起しかけておるぞ。激しく舐めたら…もっと硬くなるのだろうか…。

（丁寧に）んっ…んっ…んん…ぺろ、ぺろ…ぺろぺろ…。んう…ん、ペーろっ…おぺろぺろ…んっ、んうんん…ぺろぺろ、ぺろーっ…。

身を振らせて…くすぐったいのか？

それとも初めて胸の飾りを舐められて…心臓が騒がしいか…？

ん…んんっ…ぺろっ…ぺろぺろ…ぺろぺろ…んうっ…（息を吐く）はぁーあ…んっ…ぺろぺろ、ぺろっ…んうっ、ふうっ…ん…ぺろぺろぺろ…ぺろ。

ふふ…鼻から吐息を漏らして…少しずつ感覚が変わってきているのであろう？
飾りを舐められて…気持ち良くなっているはずだ。

ぺろぺろ…んっ、ふうっ、ん…ペーろっ…ぺろぺろぺろ…。

しかし…舐められるだけでは物足りないか？

では…私の唾液で濡れた先端を…悪戯に…指でこりこりこねてみようか…。

SE:乳首を擦る音（こりこりの台詞と同時再生）
こりこり…こりこりこりこり…。

（吐息）んう…はぁっ…んん…なかなかよい光景だな、こうして私の愛撫で感じ…声をあげてくれるお前の姿は…。はぁ…んっ…ふう、ん…余程胸の飾りを責められるのが好き

になってきたようだ。私も…こりこりのし甲斐があるというものよ。

SE:乳首を擦る音（こりこりの台詞と同時再生）
こりこりこり…こりこりこりこり…。

どうした？ 急に唇を強く噛み締めて…。

胸の飾りで感じているのが恥ずかしくなってきたのか？

ふふ…何を今更、よいじゃないか。私だって…きつと感じてしまうぞ？

私が如何に男を凌ぐような強靱な体を持っても…この身は女なのだ。お前よりも…多少は胸でも感じるだろう。

何より…激しく心を揺さぶられている…いや、これではわかりづらいか…。

好きな者に触れられるのだ、感じてしまうのは当たり前だろう？

何も恥ずかしがる必要はない。ただ…互いに愛撫をしあえばいいのよ。

（キス音）ちゅーっ…んっ、ん…はあっ、ちゅっ、んうっ…んん…。

なあ…（恥じらいつつ）そろそろ私のこともよくはしてくれぬか？ 互いに、脇を舐め合いたいのだ。

…ああ、契りの通過儀礼として、お互いの恥部を舐めあうのだ。お互いの体液を体に取り込むことで、我々は一つになる。

ん？ 私とて、他の男の脇を舐めた経験などないぞ。

お前だからこそ…こういったこともしたいと思えるのだ。

（興奮したような僅かな鼻息）ふー…ふー…ふふ…他人の脇をここまで直視した経験はないが、より一層興奮してきたぞ。

れーろっ…れーろっ…んっ、ん…んん…。

少し酸っぱい味がするな…慣れないことの連続で、無意識的に汗ばんでいたようだ。

（匂いを嗅ぐ）くんくん…くんくん…匂いは大して気にならん。このまま舐め続けていくぞ。れろーっ…れろーっ…れろれろ、れろれろ…れろーっ…れろーっ…。

どうした、お前も…舐めてはくれないのか？ 私の…脇を。

（押し付けるようにしつつ恥じらう）…ほれ、頼むぞ…。

れろれろ…れろーっ、んうっ、ん…ふーふー…れろっ、れろれろ…れろーっれろーっ。

んん……悪くない味だ……お前も、遠慮せずに存分に舐めるがいい。

（舐められて少し身もだえしながら、舐め返す）んっ…んん……ぺろ、ぺろぺろれろ…？ しかめっ面でどうした？

もしや…（恥じらいつつ匂いを嗅ぐ）くんくん…くんくん……あっ、（申し訳なさそう／恥ず

かしそうに)す、すまぬ…。

興奮のあまり…失念しておった…。

(肩を落としたように)私は、その…この世界に住む他の女と違い…少し体臭が強い…の
であろう？

(落ち込み気味に)そういう体質なのだろうが…その、やはり匂うか…。

そこまで匂いが気になるのであれば…舐め合うのは止めておくか？

わ、私は平気だぞ？ (照れ気味に) お前の匂いも含めて…好きなのだからな。

SE:肌が擦れる音

ええっ…(恥ずかしがりつつ吐息) んっ…はあっ、ん…ンン…ふうつ、ん…に、匂いが…
気にならないのか？

ううつ…ん…はあっ、ふう、ん…っああっ…はあ…わかった、匂いが気にならないのはわか
ったから…そんなに、しつこく…嗅がんでくれえ…。ただお互いに舐めて、愛撫し合えれば
…それで嬉しいのだからな。

んっ…ん、んっ……ぺろぺろ、ぺろぺろぺろ…ん、んう…んん、案外、舐めるのが上手
いな。くっ…ん、んうつ…んん、はあっ…んうつ、ふう…ぺろっ…ぺろぺろぺろ…ん、むう
っ、んっ、はあっ…ん…。く、クセになりそうだ…。

心を許した者に舐められるのは…堪らん。長い時間舐め合いたいほどだ。

っ…ん、ふうっ、ん…ぺろぺろ…れろれろっ、んうつ、んん…はあ、んっ、ふっ、ン…ん…
れろれろれろれろっ…れろれろ…んっ、はあ、んっ…ん、んうつ…。

私の唾液で…脇がぬるぬるになってきておるな。

脇の毛がちくちく唇に触れるのさえ…心地よく感じるほどに、盛り上がってきたぞ。

(ゆっくり)あーんっ…んう…んっ…ん……ぺろぺろ…ぺろぺろ、ぺろ…。んうつ、ふうっ、
ん、んっ…ぺろ…ぺろぺろ、れろっ…ううつ、んう、ふうっ…はあ、んっ、んん…。

ああ、お前の汗をちゅるちゅる吸うのも…よいなあ。

んうつ…はあっ、ううつ…けれど…自分の汗を吸われるのは…やはり恥ずかしいぞ…。

んっ…ああっ、はあん…お前の汗は…酸っぱいにもかかわらず…美味しいとさえ感じるよ
うになってきたがな。お前が感じてくれているお陰だ。

あーん…んうつ、ん、んっ…れろれろ…れろれろれろ…んうつ、ふうっ、ん、んっ…ぺ
ろっ…ぺろぺろ、ぺろ…んっ、はあ、んっう、ふうっ、ン…んん…。

なあ、そろそろ…次へ行かないか？

…大事なところも…よくしていいこうではないか…。

FO

トラック3…フェラ

(全体的に、慣れないながらも必死に愛撫をしている)

(フェラ開始までの喘ぎはキス)

竿がしっかりと勃起し始めているな。

ちゅっ…んうつ、んっ、はあっ、ちゅっ、ちゅーう。

これまでの行為が余程気持ち良かったか？

ただ直接ココを触れられないと、どこか物足りぬことだろう？

ちゅーっ…んうつ、ん…。

ふふ…口付けをしながら服を脱がしていこう。…私の前に、性器を晒してみせてくれ。

SE:服を脱がせる音(脱がせながらのキスイメージ)

んーちゅっ、ちゅっ…んうつ、はあっ…ん、ちゅっ、ちゅっ…ちゅちゅっ…じゅるっ…んうつ、はあっ、ふう、ちゅう…じゅるっじゅるっ…じゅるじゅるじゅるじゅるうっ…。

(吐息) っ…ん…ふふ…。(興奮しつつも恥じらい気味に)…顔には似合わず、想像していたよりも大きな性器が…硬く張り詰めた状態で…姿を現しおったぞ…。

(恥じらいつつ息を呑むように) なにより男の性器は初めて見たが…こんなにも狂暴的な見た目をしているのだな。

まだ完全には勃起しきつてはいないようだが…それでも、力強くて…太く、長いな…。

一見すると細身で…腹周りには多少肉付いているようなお前でも…ここは一人前のようなだ。ん…はあっ、ちゅう、ちゅ…んうつ、ンツン…。

早く…私の中にこれを入れてくれ。お前と…契りを結びたいのだ。その気持ちに偽りはない。何度も言っておろう？ 私は…お前とだからこそ、愛し合いたいと…。

ちゅっ…んっ、ンンツ…はあ、ちゅっ、ちゅーっ…ん、ふう…。

ふふ…それじゃあ、そろそろこちらにも触れていこうかの…。

(恥じらいながらの吐息) ふー…ふー…ふふ…竿が外気に触れ、ふるふると震えているのが…大きさと相反してまた可愛いな。

(好奇心旺盛に) くんくん…くんくん…むわぁっとお前の匂いも漏れ出して…気持ちが高ぶっているよ。

ん？ 臭いわけではないぞ？ お前の性器が放つ匂いが…私の欲望をますます強めるのだ。お前のこれを早くこの身で感じたいと…心の底からな。

くんくん…くんくん…ふふ、それにしても実によい香りだ。匂いを嗅いでいるだけで…秘部が濡れてしまいそうなほどよ。

すまん、私ばかりが香りに溺れて。

お前の性器を直接愛撫するぞ…。私の秘部に入れる前に、しっかりと硬くしてくれ。

（性器を舐め始める）

（息を吹きかける）ふー…ふー…ふふ、いきなり口に含むと思ったか？

徐々に、徐々に…お前を気持ち良くしていくさ。

（性器にキス）んーちゅっ…ちゅ…。

亀頭への口付けはどうだろう。唇同士とする口付けとはまた違って、高揚しそうか？

（キス）ちゅっ…ちゅちゅ…ちゅるるる…ちゅるっ。

ふふ…待ち遠しそうな表情をしているな。わかっておる、いち早く…こうされるのを求めているのだろう。

（じつくりと竿を舐める）れーろ…れーろ…竿全体を舐るように舌で舐められるのをな。

れーろ…れーろ…れろれろ…れろれろ…欲を言えば裏筋を舐められたくて堪らなかったのだろう？

れーろっ…れーろっ…れろれろ…れろれろれろれろ…れーろっ…れーろっ…ふふ…そんなに身をよじるでない。快楽を得ているのはわかるが…そんなによじられてしまったら…袋の方をにぎと握り込んでしまうぞ？

少しずつ快感を体に刻み込んでいくのだ。あまり焦るでない。

まずは竿をしっかりと唾液でぬるぬるにしていくぞ。

（舐める）れーろ…れーろっ…れーろ…れろれろ…唾液が付着した竿がぬらついているな。気持ち良さそうに吐息も漏らして…やはり男というものは、性器を刺激されるのが一番好きだよだ。

れろれろ…れーろっ…れーろっ…れろれろれろれろ…まだまだねっとりと舐ってやるぞ。れろれろれろ…れーろっ…れーろっ…れーろっ…れろれろ、れろれろっ…ちゅーっ、ちゅっちゅっ…。

さらにカチコチに硬くなってきたな。しゃぶられるよりも、舐められる方が好きなのか？お前は。

ふぁーあ…れーろ…れーろ…れろれろ…れろれろ…ああ、すごいぞ…匂いが強まってきているな…れーろ…れーろ…れろれろ…れろれろっ…れろ…舐める度に香りが鼻に入ってくるわ…お前の、濃い体臭がな。

れーろ…れーろ…れろれろ…竿の根元の方もしっかりと舐めてあげないと、拗ねてしまい

そうだな。

んっ…んう…んん…ほれ、そそり立ち始めた竿の根元を集中的に舐めてあげるから、きちんと感じてくれ。

れろー…れろー…れろー…ちゅっ…ちゅ…じゅるじゅる…ちゅぱちゅぱっ…んっ…ふうっ、れろー…れろっ…ふふ…気持ちよさそうだな。いいぞ、もっと喘いでくれ。…お前の嬌声に心を躍らせているのだからな。

れろー…れろー…れろれろ…れろれろれろ…だーかーらー、我慢はするなでない。聞かせてくれ…お前の甘い声を。私の耳に、しっかりと残るように…。

れろれろ…れろれろ…れろーれろー…れろれろ、れろれろ…んっ、ちゅっ…ふうっ、んっ、ンン…れろーれろー…れろれろ…れろー…れろー…ちゅばあっ、ちゅばあっ…れろれろ…もうそろそろ…丁寧に先端を舐めてもらいたいのだろう？

れろれろれろ…れろっ…んうっ、はあっ…ふう…れろれろ…れろれろ…。

ふふ…こくこく頷いて、可愛いな。そんなにも亀頭を弄って欲しかったか。

（吐息）はあー…ふふ…お前の望み通り、先端部分を舐めていこう。

ただまだ…射精して欲しくはないからな、根元を両手で握りながら…先端を舐めていくぞ。ほれ、待ちに待った先端への刺激だぞ。ちゃんと感じてくれよ。

れろれろ…れろれろれろれろ…んうっ…んん…れろれろ…れろれろ…んうっ、ふうっ、んんっ…れろれろ…。

可愛い声が止まらないようだな。ふふ、もっと聞かせてくれ。

っ…れろれろっ…れろれろ…れろれろれろれろ…竿が熱くなってきたぞ？　もしや…もう射精したくて堪らないというのか？

いけないなあ、お前の出す精子は全て私が頂く。まだ我慢し…後に私の中に出してくれ。ほれ、我慢だ…堪えてみせよ。

れろれろ…れろれろ…れーろっ…れーろっ…れろれろれろれろ…れろれろれろれろ…れろーっ…れろーっ…んーちゅっ、ちゅ…ちゅっ、ちゅ…。

私は…お前のどんな姿でも見たいが、特に…感じている姿を…目に焼き付けたいのだ。もし突然元の世界に戻されてしまったとしても、お前を忘れてしまわないようにな。

ちろちろ…ちろちろちろ…ふふ…血管が浮き出るようになったな。

先端から…苦みのある液体も出ているようだ。

ちろちろちろちろ…ちろちろちろちろ…ほれ、ますます溢れでて…んっ…ちゅるっ、じゅるっ…じゅるじゅるじゅるじゅる…吸えば吸うほど、口の中がいっぱいになるなあ。

もっとな私に味あわせてくれ…お前の味を…。しっかりと口で咥え込んでやるから…。

性器を咥えだす

あーむっ…んっ、んうっ、んん…んんっ…んうっ…んんっ！ んん！

全く…啞えた途端、より大きくさせるでない。い、息苦しくて堪らんかったではないか。私の口に入りきるか、そもそも疑問ではあったが…これ以上大きくされてしまうと、収まりそうにはない…が、ふふ…そんなに残念そうな顔をする。きちんと私の口で喜ばせてやる。

あーむっ…んうっ、ん、んっ…んっ、あぁっ、んっ…じゅぷっ…じゅぷっ…じゅぷじゅぷっ…ううっ…呼吸の仕方を忘れてしまいそうになるくらい、太くて堪らん…お前の性器は…んっちゅっぷっ…ちゅぷちゅぷ…ん、はぁっ、んう…ん…。

…なあ、知っておるのだぞ？

お前、私がここに来てから…一度も自分でしてはおらぬな？

私に気を遣ってくれていたのかはわからぬが…相当性欲を我慢していたのだろうか？

決して私に手を出さず…日々を過ごし、ただただ…言葉や態度だけで愛を育んでくれた。

ん…っっ、ん、ちゅうっ…はぁっ、ん…んうっ、ん…ちゅぷ、ちゅぷ…ちゅぷちゅぷ…んっ…ん、はぁっ…じゅるっ…じゅるじゅる…んう…ふうっ、んうっ、ん…はぁ、んっ…。

その恩を返す、というわけではないが…自分の気持ちに素直になって、お前とともにいたいと…お前と契りを結びたいと思ったのだ。

ふふ…ここまできたら、後戻りはできぬぞ？

（囁く）何度でも言わせてもらおう。私は…お前と…契りを結びたいのだ…。

（嬉しそうに）ふ…竿がぴくんと震えたな。

お前も…私と同じ気持ちでいると、そう思ってもよいのか？

（性器にキス）ちゅちゅっ…。ありがとう。

んう…ふうっ、ん…ちゅっ…んっ、じゅるっ…じゅるじゅる…ちゅぷちゅぷっ…んっ、んうっ、はぁっ…ん、んうっ、ん…ちゅぷちゅばぁっ…ちゅばちゅば…ん、ふうっ、んっ…はぁんっ、んっ…ふ、うっ、ん…。

ここまで頑張って愛撫を施してきたのだがな…私とて、こういった経験が豊富なわけではないのだぞ。

男と契りを結ぶまでは…誰ともそういった関係性になつてはならぬと、部族の掟で決まっておるのだ。

（恥じらいつつ）だから、私も…初めてでな…必死に、お前をよくしようと必死なのだ。ど、どうだっただろうか？ 私の愛撫は…よいか？

(微笑み) ふふ…ちゅぷうつ、んっ…はあっ、ちゅっ、ちゅ…んうん、ちゅぷちゅぱっ…じゅるじゅるっ…じゅるじゅるじゅるじゅるるうっ！

その反応…安心したぞ。今すぐにでも射精したそうな顔をしている。

いいぞ…そろそろ…私の中に出すとよい。

(恥じらいながら) ほれ、私の秘部はここだ…。

SE:くちゅ、と性器を広げる音

今こそ、契りを結ぼうぞ。

FO

トラック4…正常位

（強がりではなく、恥じらいが大きくなり出す）

私が…仰向けになればよいのだな…。

ふ…自分よりも脆弱そうな体に組み敷かれようなどと、想像をしたこともなかったぞ。
だが…気付いたのだ。

肉体的には私の方が上手^{うわて}でも、人は中身なのだ、とな。

もちろん、自分自身の屈強な筋肉には一点の陰りもないが…自分よりも猛々しい私を女扱
いしてくれるお前には…感謝しかないぞ。

（キス）…んうつ…ちゅっ、ちゅ…。

さあ、契りを結ぼう…。

SE:シャツが擦れる音

（吐息）ん…ふう……んっ、ん…。

（若干恥じらう）このくらい、脚を広げれば入れやすいか？

お前も初めてなのだろう？ わ、私が…これまで通り主導権を握ってやるから、ほれ…その
猛った性器を入れてみてくれ。

ただ…す、すまぬが…は、初めてだから…優しくしてはくれないか。ゆっくり、頼むぞ…。

SE:挿入する音

うつ…ああ、そうだ…秘部に性器を宛がい、少しずつ丁寧…に入れて欲しいのだ。

（痛みを堪えつつ恥じらい喘ぐ）んっ…はあ、ん…ふうっ……そのまま、頼む…くう…ふ、

んっ…ああはあ…は、入ってるのが…わか、る…ぞ…。んっう…ああっ、はあっ、ひいっ、

あ…やあっ、うつ…うつ！ ん…ああ…ひいっ、うう…。

はあ…うつ、んう…ああっ、あーあ…ふうっ、ン…。

SE:性器を抜く

（息を切らして）…お、おいっ…!? お前…どうして…抜いてしまったのだ…？

早く私の中に出したいのだろうか？ さっきまで必死に堪えていたのは、この時の為なのに、
なんで…。

（軽く驚きつつ強がる）そ、そうか…お、お前には見抜かれていたのか。

だが、大丈夫だ、安心しろ！

わ、私は…お前が思っているほどやわではない。

このくらいの痛みは…平気だ、だからほれ…再開しよう。

今度はしっかり挿入するのだぞ？

お前だって、いつまでも我慢している方が辛いだろう？ 私のことはよい…契りを結ぼうぞ…。

SE:足を広げる、くちゅつとした音（台詞言いながら）

脚を広げていてやるから…そのまま覆い被さって…秘部に入れるのだ。

SE:挿入する音

（呼吸を整えて）はー…ふー…（吐息混じりに）ん、んうっ！ あっあ…今度こそ、お前の性を…中に収めて…やる、からなあ…！ ふうつ、ん…はあ、あ…いいっ、ああっ…はあ、ん…うっ…！ そ、そこお…そこが…痛くてえ…かなわん、の、だあ…いいっ、ひいっ、あっ、んうっ！ んっう！ ん！ んうつ、ああ…あっ、ひいっ、い…。

いつ…ひいっ…い…ああ…た、のむう…また、ぬ、いて…くれえっ…！

SE:性を抜く音（あっ…と言いながら）

あっ…うう、ん…

…すまぬ、な、どうしても…痛みが、あるのだ…。

私に…時間をくれ。

お前が…精を吐き出したい気持ちを…必死に我慢してくれているのはわかってるのだ。だが…お願いだ…。深呼吸をさせて欲しい。

（深呼吸）はー…ふー…はー…ふー…。

よし。つ、次こそは…堪えてみせる、からな…。

（恥じらう）へえっ…!? ああっ…んう…ふうっ、ん…突然、どうしたのだ。

私の体を嗅ぐなど…そんなにくんくんされたら…くすぐったいではないかあ…。

（強がる）んっ…はああ、ふうっ、う…ふふ…お前なりに、私の身を案じてくれているのだな…。

ありがとう…だが…もう大丈夫だ。挿入してくれ…。

SE:挿入する音

(僅かに痛みを覚えている雰囲気の吐息) っ…ん、ふうっ、ン…ああっ、ああ…ひいつ…。
今度、こそお…んっ、ああっ…はあ、ううっ…お前の性器が…中、にいつ…。

ああ、んうっ、ふ、うっ…あ、はあ…もう、そろそろ…全て入りきりそう、かあ…？

ん、ああっつ、はあ…ううっ、ん、ひいつ…いいっ、あ…？ な、なにい？ まだ、半分も入っていないのか？

ううっ…す、すまんが…待て…待て…まつ、てくれ…。

中が…どうしても痛むのだ…まだ、動かずう…そのまま…いてえ…欲しいのだあ…。

(痛みを堪える吐息) う…ふうー…う…いいっ…あ…ふう…んっ…。

わかっている…わかっているのだが、どうしても体に力が入ってしまう…。

不慣れながらも、必死にお前の体を気持ち良くしてやろうとしてきたのだ。

しかし…ふふ…自分の体の中に異物を入れられると思うと…やはり、な…。怖気づいてしま
う…。

けれど、今度こそ…大丈夫だ。もう少し…深くまで…お前の性器を…私に…入れてくれ。

SE:やたらに深く挿入する音

(痛みを堪える吐息) ふう…ん…はあ、う…んっ…ああ…はあ…ううっ！ ううっ…！
ううっ、あああっ…ああ…！

(痛みを堪えて強がる) ああ…はあ、うっ…やあっ、と…お前の性器を…全て、飲み込めた、
かあ…？

(自信気に) それは…よかつ、たあ…ふふ…私はタフであろう？ しよ、処女膜が破れる程
度の痛みは…どうってこと、ない、のだ…ううっ…。

(ごくり) だが…その…動く、時には…激しくするのだけは…止めてくれ。

SE:ゆへくり動き始める

んっ…んうっ！ ん…ああっ…ひいつ、いつ…そ、そうだ、少しずつ動いて、くれえっ…い
っ、ふうっ、ん…ああ…ふ、う…。

(痛みは残りつつも感じているため、恥じらいながらの喘ぎ) あっ…、んうふうっ…ふ、ん
…ああ、んう…う、んっ…はあっ、ん…んう…。

な、なあ…動きながら、口付けを…してはくれぬかあ？

んっ…ああっ、はあ…お前の熱を…秘部以外でも、感じたいのだ。

(感じながらのキス音) んう…っ、ふう、んっ…あぁっ、ン…ひ、いっ…んっ…んん…ふ
うっ、ン…んう…はぁ、っ…ん、ちゅっ…ちゅ…ちゅちゅっ…んう、はぁ、んっ…ふう、
んっ…いっ、はぁ、ンっ…。

あ、ありがとう…。口付けのお陰で…いい具合にいっ…落ち着いてきた…。

SE:舐める音

(恥じらい) ひいっ…!? お、お前…いきなり首回りを舐めるな…!

SE:舐め続ける(台詞の間)

んっ…はぁっ、ひいっ…ううっ…やぁんっ…どうしたのだ、そんな…んうっ…はぁっ、ふう
っ…。

(照れる) な、なにいつ? 私の匂いが癖になったというか…!? 私の…この体臭が…
はぁっ…ふうっ、んう…そ、それは嬉しいが、その…ん、やぁっ、んっ、はぁっ…ううっ…
そんなに必死に舐められてしまうと、は、恥ずかしいじゃないか…。

あっ…脇まで…んんっ…あっ…入れられながら舐められると……さっきより、感じてしま
うではないか…ン…んう…はぁ、あぁ…はぁ…ううっ! ううっ…あぁんっ! あんっ!
なぁ…そろそろ少しくらい…激しく動いてくれないで構わないぞ。

今まで…お前には散々我慢させてしまったからな…。

ほれ…(キス音) ちゅっ…ちゅ、ちゅっ…んうっ…動くといい。

SE:動き始める

(まだ痛みはある喘ぎ/恥じらう) あぁっ、はぁっ…んうっ、んっ…はぁ…あぁ…ひいっ、
ううっ…

うっ…ますます、中で性器を硬くさせ、おって…。そんなにい…私の秘部が心地よいという
のかあ? あぁっ、いっ、ふうっ、んっ…あぁっ、はぁ…ふう、んっ…う…。

んうっ、あぁ…はぁっ、いっ、ひいっ…ふっ、ふふ…お前が気持ち良さそうにしてくれるの
が心より嬉しいぞ。先程までのお前は…今すぐにでも…精子を吐き出したそうにいっ…ふ
うっ、ン…あぁっ、はぁ…していた、からなぁ…んっ、う…あぁっ…あ…。

ううっ…中で、中でえっ…性器がびくびくしてるうっ…す、すぐく…変な感覚、だぞおっ
…こ、腰を…打ち付けられるた、びにいっ…うっ、ふっ、ン…あぁっ、はぁっ…言いようの
ない、苦しさに…襲われる、というのにいっ…あぁっ、はぁ…んうっ、ふうっ…足先があ…
震えて止まらない、のだぁ…こ、これがあ…気持ちがいい、ということ、なのかなぁっ…?

ああん首回りを舐められるのも…堪らあん！ お前から施される愛撫全てが…私を心からよくしてくれておるうつ！

ああっ、うつっ…んっ…ああっ、はあ…ほ、本当は…まだ、中があ、ヒリヒリ痛んでえ…堪らないんだあ…。最奥を突かれる、度にい…ぐっぐって…いた、くてえ…うつ、ふうっ、ン…あああっ、ひいつ、いっう…もつと…口付けをしてえ…欲しいぐらいなのにいっ…！

（喘ぎ混じりのキス音）んんうつ?! …ああ…んうつ、ふう…ん…んっ…ちゅっ…ちゅう…んっ、はあっ…うつ、ん…ん…ふう、ああっ…んっ…ひいつ、ちゅう…ん…。

ふふ…あり、がとう…。お前と…契りを結べて…喜ばしいぞ…。

だが…まだ…足りない…。私の中に…お前の精子を…注いでくれ。そこまでして…契りを結び終えたことに、なる、のだあっ…ああっ、ふうっ、ン…。

私は…もう、平気だからな。めいっばい、動いて…よいぞ。

SE:激しく動く

（まだ痛みが残りつつの喘ぎ）んう…はあっ、いっ…い…ふう…うつ…ん、ああっ、はあ…ふ、う…んっ、ふふ…んう…はあ、ああっ…んっ、ン…い、いい、ぞお…もう、射精したいのであろう？

中に…出してくれ…。私の中を…お前の精子で、満たして…くれええっ！

SE:やうに激しく動く

ああんっ、ふうっ…ううつ、ン…はあ、ひいつ、いっ…ふ、うつ…んっ、ン…ひいひい…うつ、ン…あああっ、は、激しいいっ…！ んっ、ああっ、はあ、うつ、でも…やっと…快感、をお…得られているうつ…！ お前の、お陰…だなあ…。

お前があ…私の言葉を受けてえ…無理やりにはなく…ちゃんっと、待ってくれていたから、だああっ…！

んっ、はあ…ううつ、ふっ、ン…ああ、ああ…ああっ、んっ、ふうっ…ん、んっ…あはっ、いいつ、うつ…んっ、ンンっん…な、中でええっ…生殖器が…また、ビクビクとしておるうつ…！

私の中にいっ…出したいかあ？ 出したいのであろうう？

もう…我慢をする必要はないぞおっ…！ んっ、はあっ、あ…うつ、ふうっ、ン…はあ、ひいつ、うつ…ンッ、ン…ンンッん…中にいっつ…めいっばいいいっ、注いで…くれええっ！ ああっ、はあ…そのまま、そのままあ…激しく腰を打ち付けえ…出せええっ！

（未だに痛みを感じつつの喘ぎ）ひいつ…ううつ、んっ、はあっ…あっ、ふうっ、ンッ…ンッンン…はあ、うつ、ふうっ、ン…ああっ、あああっ…今、出すか？ 出すのかあ？

ああんっ、うっ…ふうっ、出せえ…！ 出せえ、出せええっ…！
んっ、んうっ…ンツンンンっ…あああっ、はあ、（軽くイっている）ああああっ…！

SE:射精音

（吐息）ううっ…ふう…ん…ああ…ん…あっ…ははあ…ドバドバっ…私の中に…大量の精子が…注がれたぞ…。（恥じらう）んっ…ふうっ…う…私も…軽く果ててしまったよ…。あ、脚の震えが止まらん…ちよつと動かれるだけで…大いに感じてしまい、そうであ…。

（恥じらう）それに…お前は…本当に私の匂いが好きになったのだな。体が熱く汗を流していて…より強く匂うだろうに…そんなに熱心に匂いを嗅がれてしまったら…何も言えなくなってしまうではないか。

あっ…はあ、ふう…ん…ンン…それどころか…頭がくらくらしている…何やら夢の中のよう…どこか…不思議な感覚だ…。

ふふ…（キス音）んーちゅっ…ちゅっ…ちゅちゅっ…ん、はあ、む、んっ…。
でも…決して夢ではないのだよな。

本当に…お前と契りを結ぶことが出来た。それが…とても嬉しいのだ。
元いた世界で、成人の儀を迎える前に…こちらに來られてよかった。でない…お前とは、こういう関係になることができなかったであろうからな。

なあ、もう一度口付けをしてもよいか？

（強がり恥じらう）んう…はあっ…んっ、ふうっ、ん…。

まったく…私は口付けを望んだのだぞ？ 匂いを嗅いで欲しいとは一言も言っておらぬよ。ほれ、私の唇はこっちじゃ…。

ちゅ…ん、んうっ…ふう、ン…はあ、ちゅっ、ちゅ…ん、ンン…ふうっ、ン…じゅるっ…じゅるじゅるっ…ん、はあっ、ちゅっ…ちゅう…ん…ンうンツ…。

どうした、口付けをしただけで…お前のおそこがまた…元気になってきているようだな。構わないぞ…。もう一度、するか？

最初はただ痛みを感じるだけで…快感を得られるのか不安で仕方がなかったが…今ならば違う。…痛みがあっても、きちんと…快感を拾い上げることが出来る。

（余裕がなくなりだした恥じらい）ふふ…お前だけがもう一度したいわけではない…。
私も…お前と同じ気持ちだ。もう一度…今度は体勢を変えて…しようではないか。

断られる謂れはないぞ？ お前の性器は…実に素直で、決して嘘をつけないらしいからな。

(キス音) ん…ちゅっ…ちゅ、ちゅーう…ふう、ン…んはあっ、ン…ん…んうつ、んっ…。
ほれ、続きをしましょうか。…チュッ。

FO

トラック5…バック

余裕がなくなり恥じらいを表に出すように

（恥じらう）次は…け、獣のような体勢ではないか。
む、昔な…誤って同じ部族の成人の儀を見たことがあるのだ。
その時…こうして…女が四つん這いになっていてな、男を受け入れていた…。そして実に艶めかしい声をあげていたのが…今でも鮮明に思い出せる。

だが…その当時は契りを結ぶ際には決して痛みはないだろうと思っていたのだが…ふふ…
よもや想像を超える痛みであったぞ。お前が丁寧に…優しくしてくれていなければ…涙を流していたであろうな。

なんて…長話をしていては勿体ないな。
ほれ…

SE:へちゅっとした音

う、後ろから…挿入してくれ。お前のを…改めて受け止めたいのだ。

SE:挿入音

SE:すいし激しめに動く

（若干痛みを感じている吐息）んうっ…ん！ んう、はあっ…ああっ！
うっ…ふう、ん…先ほどよりも…ふ、深い場所にまで…お前の性器が入っているようだ。あ
あ…ふうっ、ん…痛みには…少しずつ慣れていたはず、なのだが…ううっ、ふ、ん…はあっ、
ふ、ん…うう…やはり、まだ痛む、なあ…。

（痛みを我慢している）んっ…う…はあ、ふう、ひいつ、ン…んっ、ああ…は、激しいなあ
あっ…！ 腰を打ち付ける速度が…早くてえっ…ああんっ、はあっ、ふうっ、ン…ひっ…な、
中でえ…性器が震えておるうっ！
こんなにもすぐ射精をしたいのかあ…？ あっ、はあ、んっふう…んっ、ああ…はあ、
ひいつふうっ…私の中で果ててくれるのは…嬉しいのだあ…！ しかし、やああっ、んっう
う…あまりにも激しいとお…ヒリヒリしてええ…！ 快樂どころではないのだあ…っ！
あんっはああうっ、ふう…ああふうっ、ひいつ…わかったあ…構わぬう…すぐにでも射精を
してもよいからああっ…もう少しっゆっくりいっ…！

SE:動く音、ややゆっくりになる

(痛みを堪え) んう…はあっ、あ…ふうっ、んっ…ああっ、はあっっ…ううっ、そのぐらいの速さで…たのむうっ…んうっ、はあうっ…もう、出ると言うかああ？ わかった、受け止める、からああっ…(痛みを感じながらも恥じらい喘ぐ) んっ、はあっ、うっ、んっ、んっ、んっ…あんっ、はあっ、んうふうっ…ううっ、んっ、はあ、ああっ…ああああっ…!

SE:射精音

(吐息) はあ…あ…ああっ…はあっ…熱い精子があ…私の中にい…ふうっ、ン、はあ…あ…ああっ…はあ…んうふうっ…うっ、はあ、んっ…わかっておるう…まだ、足りぬのであろう？
はあっ…ふう、ん…あ…頼む…今度は…もう少し…優しくしてくれえ…。でないと…私の身が、もちそうにないのだあ…。

SE:1、2回抜き差し

(痛みを忘れるように) ふうっん…はあ…うふうっ……。

す、すまぬな…。まだ痛みがあつて…お前のように、ただ快感を貪れるほどの…余裕はないんだ。

だから…

SE:ゆっくり動く

ああ、そうだ…そのくらい、丁寧に…ゆっくり…腰を動かしてくれ。

ああ…ん、ふう…んっあ…ん…ひいっ…い…ふふ…助かる、ぞ…。

(余裕なく恥じらう)

ん、ふうっ…んっ、んうふ…はあ…んう…う…ふうー…んっ、ん…はあ、んっ、ン…うっふうう…。

はあっ、ああっ!? んっう…ああんっ…はあっ、ううっ…やあはっ、はあ…お前、今…どこを撫でてえっ!

んっ、ふうっ…ああ…ん…背中を…撫でたと、いうのかあ? んっ、ふうう…はあっ、あ…んっ、とてもいやらしい撫で方をしている、じゃないかあ…。

ただ触れられているのとはわけが、違うう…繋がっているから、なのかあ? 背中まで…立派な性感帯になってしまったかのようにい…感じてしまうう…。

はあっ、んう…ふう、ああっ…ん、背中を撫でられていると…秘部の痛みなど…忘れられそう、だ…あ、んう…はああっ…ああ…。

（余裕なく懇願）もっと…背中を撫でてはくれぬか？　そう、そうだ…腰を掴みながらも…片方の手でえ…背中を撫でてえ…ああん、ふうあ…ああっ…ううっ、ん…あ…。

ふう…んっ、んう…はあー…んっ、んうっ、ふう…んっ、ああっ、あ…。

（恥じらいつつも余裕がなくなり）んう…くうっ…ふうっ、んはあっ…ああ、ふ…ううんっ…ああ、はあ…。まさか…背中を撫でられて感じるとは思ひもなかったが…ふふ、あの時に見た同じ部族の者も…こんな気持ちだったのだろうか…。

ふう…んっ、はあ、うっ…お前の顔を見えないと…少しだけ、不安になるのだ…。だがそんなささいな不安を全て払拭させてしまふ、ほどのお…快感が襲い掛かってくる…うっ！

んっ、ふう…はあ、んっ、くう…うっ、んっ、はあ、んっ…ふうっ、んっ、んっ…はああっ、ああっ…き、気持ちがよい、ぞおっ…！　はあっ、んう、ふうっ…ん、っう…んっ、はああ…あっ…！

SE:少し激しくなる

んうっ、はあ…ううっ、ふう…ああ…ああ…う…う…どくどくと…また性器が脈打っておるな…。ふふ…やはりまだ足りなかったか…よいぞ…もう一度、私の中に出してくれ…。

ふう、んっ…んっ、ああっ、はあ…ふっ、ん、いっ、ふ…はあ、んっ、ん…あっはあ、んっ、ん…んっん、はあ…今度こそ…私を…深い快樂へと…導いて欲しいのだ…。んっ…ううっ、ふうっ、ん…ああ、はあ、んっんっんっ！　ああっ…はあっ、うっ、んっ…んっ…痛みを越えた先にある…悦びへ…。

ん、ふうっ、んう…はあ、うっ、んいっ、ひいっ…い…ふふ…心配せずとも良い。はあ…んうっ、ふ…んっ、んっ…んう…大げさだな…お前は…。

んっ、んっ…ん、ん、うっ、はあっ…ひいっ…ふう、んっ…んう…私自身が分泌している愛液と…んっ…んうっ、ん…お前が出した精子で…はあっ、ん…ふうっ、んっ…ああー…はあっ、ん…私の秘部は既に…ぬるぬるになっているのだ。

ほれ…んっ…はあっ、ふう…ひいっ…ひいーっ…んっ、はあ…耳を澄ましてみよ…。んっ…ああっ、はあ…んっ、ん…くちゅくちゅいやらしい音が…ん、んっ…はあっ…立っているだろう？　それだけ…んっ、んうっ…んーっ…私の中が潤っている証よ…。

お陰で…あああうっ…！　んっ、んう…ふうっ、ん…初めてお前が挿入した時と比べ…んっ、はあ、ふうっ…んっうっ、ん…痛みも減った…。ああっ、ふうっ…んっ…もちろん、全く痛

みがないわけではないが…んう…はあっ、ふふっ…んうっ、ン…大丈夫だ。お前は…ただ…ん、はあっ…ん、んうっ…ああっはあっ…己の欲望に忠実に…ふうっ、ン…ああっ、はあ…んっ…！ はあっ、うっ…ふうっ、ンッ…腰を打ち付けばよいのよ。
ふふ…んっ…ああ、もつと…動きなさい、私は…お前の全てを受け止めたくて…んうっ、ん…ああっはっ、ンウッっ…契りを結ぼうと提案をしたのだからなあ…。

SE:やうに激しくなっていく

(若干強がり)ふうっ…ん、んうっ、はあ…んうっ、ん、ひいつ、ふうっ、んっ…ううっ、んっ…はあっ、あ…お前の性器の形が手に取るようにわかるぞ…はあ…んっ、ンッンッ…ふうっ、ンーツ、はあっ…ううっ、ン…今、どのくらいまで大きくなり…硬くなっているのか…ああっ、ふうっ…ん…反対に…射精して力を失った、とな…。
ほれほれ…んう…ああっ、んっ…ふうっ、ン…また力が増して来たな？ ふふ…そのまま…(余裕なく)んうっ、ああっはあっ…引き続き…はあっ、んうっ、ふうっ、ン…あああっ、はあっ…気持ちのよいところを…んっ、ふうっ…ゴリゴリと…ああんっ！ …ふうーう…ン…刺激してくれ…。

SE:lustスパート

ああんっ、ああっ…ふうっ、ん…ああ、そうだ、そこおっ…そこがよいのだあ！
んうっ…ああっ、はあ…ふうっ、ンッン…ああっ、はあっ…お前も…よいかあっ？
ううっ…んっ、はあっ、ンッン…ああっ、はあ、ひいつ、ふっ、んっ…ああっ、ああひいつ…うっ…！ なんて…口にせずとも…ああんっ…わかる、か…んう、はあっ、うっ…お前も気持ちよいよな…んっ、ああっ…はあ、ふうっ…んっ、余裕がなさそうにいつ…んっ、はあっ…激しく腰を打ち付けてえっ…んっ、はあっ、いいっ…ふううっ、ン…ンッはあっ…。
でもお…ああっ、んうっ、ふう…まだ…んっ、はあっあ…んっふうっ…射精しては…ん、はあっ…ならぬ…んっ…はあっああっ…私と…んうっ、ふうっ、ん…ああっ、はあっ、ん…共に…んっああっはあ…果てようぞ…！ んうっ…ああっ、はあ…ああんっ…！
(余裕がなさそうに恥じらう)ふふうっ…んうっ、ああっ…あ…やあっ、だが…もうう…私は限界…だあっ…ああんっ、んうっ…！ すぐにでもお…ああんっ、はあ、果てて、しまいううっ…！ んっ、ああっ…はああっ…んうっ、ふうっ…ああん…ああ…。
(余裕がなくなった様子で)ううっ…ああっ、やあっ…はあっ、う、んうっ…んっん、つつ…んっ、んっはあっ、んう…！
あっはあっ…んっ、もおっ…だめ…いつ、くうっ…うっ、ンッ…ああっ、はあっ、んっ、ん…ああっ、あああっ…(果てる)あああーっ！

SE:射精音

(恥じらい吐息) …ああ…あ…ふうー…うつ、ん…。

(満足そうに) ふふ…^{なか}膣が…実に熱くて…お前と、契りを結べたのだと…実感ができるぞ。

だが…もう、今日はこれでしまいだ、なあ…。

初めてにしては…すごく濃厚な…行為だったぞ…。

FO

トラック6..事後

SE:シーツが擦れる音

(恥じらい) 今日初めてのことばかりで、…ついつい恥じらいが出てしまっていたよ。最後の方だって…本当は、私がお前を快楽に導いてやりたかったのだが…なかなか上手くいかず、なすがままだったな。

SE:衣擦れなど、寝返りの音

(幸せそうに) んう…しかし…初めての相手がお前で…本当によかったぞ。実に幸せな時間だった…。

なんて…私は何をしんみりとしているのだろうか。

心からお前を求め…契りを結べたからか？

もしも、何のきっかけもなく…元の世界に戻るようになってしまったらと思うと…不安、なのかな…。

(キス) ちゅーっ…ん…っ、んうっ、ん…。

何かの拍子に…お前にもう二度と触れられない日が訪れてしまったら…私は堪えられないよ。

お前は…どうだ？

私と契りを結べて…嬉しかったか？ 心の底から満足…できたのか？

ふふ…お前は優しいからな、そう言ってくれると踏んでいたよ。

…ありがとう…。

私が元の世界に帰ってしまうその日まで…よろしくな。

…ふふ、やはり私らしくはないな！ こんなにしんみりとしてしまうのは！

よーし、私の胸を貸してやるから…今日はもう寝るぞ！

それに…明日は仕事が休みだと言っておったな？

ならば…一日中、私とともにいること！ よいな？

契りを結んだ者同士は、命を落とすまでもににいるのが、私がいた部族のしきたりなのだ！

(悲しげにつぶやく) 私とお前とは…どうなるかはわからないがな…。

(明るくキス) ちゅーっ…ふふ、おやすみ。ともにいい夢を見ようぞ。